

学校教育目標

かがやけ はばたけ こまばっ子 学びのその先へ

めあてをもつ

自分のめあてをもち ねばり強く取り組み振り返る

考えをもつ

自分の考えをもち 相手の考えを理解し伝え合う

よさに気付く

自分のよさに気付き 相手のよさをみとめ学びに生かす



校長 石川 朋実

「よさ」を力に、駿馬のごとく「一歩前へ」

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

保護者、地域の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動に多大なるご理解と温かいご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和八年、午年が始まりました。校名に刻まれた「駒」という一字、そして本校に隣接する函館競馬場の活気。馬は古来より、幸運を運び、困難を飛び越える「躍進」の象徴です。この特別な干支の年にあたり、子供たちの無限の可能性を、緑の芝を駆け抜ける若駒たちの姿に重ね、教職員一同、その飛躍を支える決意を新たにしています。

今年度、本校では「よさに気付く～一歩前へ」を教育の柱に据えてまいりました。自らの「よさ」を信じていくことができれば、失敗は「挫折」ではなく、次への「学び」に変わります。また、仲間の「よさ」を認められる子は、一人では越えられない障害も、互いに手を取り合い、知恵を出し合って前へ進むことができます。自分を信じ、仲間と響き合い、自らの意志で動き出す。この主体的な歩みこそが、「かがやけ はばたけ こまばっ子」の姿であると考えます。

さて、競走馬がその俊足を十分に発揮できるのは、陣営（チーム）との揺るぎない信頼関係があってこそです。学校、家庭、地域が子供たちの「小さな一歩」を認め、その試行錯誤を「よさ」として称賛する。その温かな眼差しが重なり合うとき、子供たちはより高く、より遠くへ跳躍することができるのです。結果のよし悪しに留まらず、お子様が「やってみたこと」そのものに、ぜひ光を当ててください。

三学期は、現学年のまとめであると同時に、「次なるステージの始まり」への大切な「助走」の期間です。失敗を恐れず、未来に向かって嘶（いなな）く若駒のように。子供たちが自分の、そして仲間の「よさ」を追い風にして、希望のスタートラインへと力強く駆け抜けていけるよう、本年も変わらぬお力添えをお願い申し上げます。

学校における電話対応について

これまでもお伝えしておりますように、学校では、保護者の皆様のお電話による情報提供や連絡、ご質問等に、より正確に対応し、聞き間違いによるご迷惑を防止するため、状況に応じて通話を録音しております。この措置は、皆様からのご連絡内容を正しく受け取り、どの職員でもより正確に共有できるようにするためのものです。なお、録音した通話内容は、該当する事案の対応が終了次第、削除いたします。ご理解とご協力をお願いいたします。

なお、電話での対応は、基本的に15分以内とさせていただきます。それ以上の時間を要する場合には、恐れ入りますが、落ち着いた環境で丁寧にお話を伺えるよう、ご来校による面談をお願いしております。指導の充実を図るための取組ですので、温かなご理解をお願いいたします。